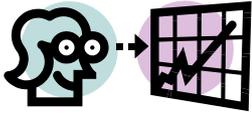


～ FP情報 第2回 ～



今回は、平成19年10月3日に行われたマネーセミナー「女性のためのやさしく楽しい資産運用」のセミナー内容をご紹介します！



今回は、特別に講師として独立系FP支援証券会社であるLPL証券より、女性の講師の方をお招きして今話題の【投資信託】について、良い投資信託・悪い投資信託の見分け方や賢い利用法などについて解説してもらいました。

まずは、投資信託とはどんな商品なのでしょう？これまでの預金との違いは何でしょうか？

投資信託の特徴

少ない金額(1万円)から始められる
数十～数百の株式銘柄などに分散投資が可能 リスク軽減
銘柄選択や売買等の運用はプロが行う

預金金利と投資信託の違い

預金金利は元本保証 投資信託は元本割れもある

参考 過去の投資期間別にみた収益率の比較(日本 1952年～1998年)
(長期で見ると、株式投資は債券や預金よりも高リターン)

46年間の平均リターンは…

株式 … 年率 14.5%

債券 … 年率 6.8%

預金 … 年率 5.1%

投資信託の選択の際に、注意する事は何でしょう？

「儲かる投資信託を教えてください」と質問される事が多いのですが、

・その質問は、【どの市場(日本株式やアジア株式、世界債券など)が上がるか]を尋ねているのに等しい。

・「上がる市場が当てられる」のであればみんな大金持ちになれる

・実際には当てられない。



・「市場が当てられない」のであれば、**市場を分散して投資する**ことにより儲ける

「当てにいかない」という事も重要です！



2,3年などの短期の期間で勝負をしない

10年以上の長期保有する事により収益率が安定していきます

金融機関の「売りやすい」「売りたい」投資信託が自分達のニーズに合っているとは言えない

・**販売実績**では、運用期間(発売してからの期間)が**3年以下の投資信託が全体の47.6%**も占めている

・ところが、**実際の運用実績**を東証株価指数(TOPIX)と比較すると

発売から**10年以上経過した長寿投信**は平均で**年率2.7%上回っている**

発売から**1～3年の投信**は平均で**年率3.1%下回っている**

投信運用会社は発売時点での市場動向や、流行をみて投資家が受け入れやすい新商品の開発を行い、金融機関はその宣伝や販売を集中しがちになり、結果日本の投資家はそれらを購入しがちである。

ところが、米国では少なくとも3年以上運用し、実績を残した投信に資金が集まる傾向が強い。

つまり、**日本では投資家が過去の運用実績を重視していないのではないか？**

以上の3点をポイントに置いて、投資信託を用いた資産運用、商品の選択に取り組んでみては如何でしょうか？
当社でも投資信託等を用いた資産運用についてのアドバイスを行っています。興味のある方は是非ご相談下さい。